

①
新学級
経営の基礎知識

朝の健康観察

朝、元気に登校してくる子どもたちを校門や教室で迎えている先生もいるでしょう。子どものほうから挨拶をしている子どももいれば、こちらから挨拶しても返事のない子どももいます。朝の子どもたちを観察していると、挨拶の様子や表情、振る舞いなどから、子どものその日の体調や気分などがよくわかります。家でいやなことがあった子ども、楽しいことがあった子どもなどもわかります。

全員が揃って座席についている「朝の会」の時間は、子どもたちの健康状態を観察する重要な場です。最も大切な点検事項は出欠の有無を確認することです。結果はできるだけ早く養護教諭など担当者に知らせます。連続して欠席している子どもには休み時間などに家庭に連絡し状況を聞きます。

さらに、一人一人に目を配り、変化はないかを観察します。ここでは、小さなことを見逃さない観察眼や洞察力や想像力が問われます。教師と目を合わせない子ども、表情がどこか暗い子ども、落ち着きのない子どもなど、いつもの状況と違った様子の子どもは、家庭などで何かあったはずです。特段の配慮が必要です。休み時間に個別に話をする時間を設けたり、状況によっては家庭に問い合わせたりします。

担任が気づかなかったことや担任のまえでは見せない言動を校内の教職員が伝えてくれることもあります。校内にすべての子どもたちを見守る体制がとられていることが求められます。

担任が毎朝子どもたちの体と心の健康状態を観察し、どの子どもも学校生活を元気に送れるようにします。担任の健康観察は朝の重要な仕事です。

Ⅱ 教育の動向 ㊦ コンプライアンス(法令遵守)

社会にはさまざまなきまりがあります。それらは法律や条例として規定されており、すべての人が遵守する義務があります。学校教育に関しても教育基本法や学校教育法をはじめ、多くの法律があります。法律には施行令や施行規則が定められているものもあります。文部科学省が発出した通知、裁判所の判例、都道府県など自治体が定めた条例などもあります。これらには、教師として採用されてから退職するまでのこと、教育課程や学習指導、生徒指導など職務に関すること、教員の服務規定についても示されています。

多くの先生方から、「法律はどうも苦手です。教育法規を丁寧に読んだこ

とがありません」という声を多く耳にします。教育委員会の服務担当者からは、毎日教員の服務に関する事務処理におわれていると聞きます。

事故や事件、トラブルなどが起こったときには「知らなかった」では済まされません。事案が発生すると、その過失の有無が証拠と法律にもとづいて判断されます。教育法規に関する研修を校内や教育センターなどで定期的を実施してはどうでしょうか。コンプライアンス（法令遵守）の意識をもって毎日の職務を遂行したいものです。

なお、私たちは法律によって身分や仕事や生活が守られていることも認識する必要があります。

Ⅲ 連載 先人の残した言葉 ㊦ 安井 息軒

一日の計は朝に在り。一年の計は春に在り。
一生の計は少壮の時に在り。

安井息軒は、幕末から明治の初めに活躍した儒学者です。日向国（宮崎県）で、儒者であった父・安井滄州の2番目の子として生まれました。江戸に出て、江戸幕府の学校である昌平坂学問所で学びました。この言葉にある「計」とは、物事がうまく運ぶように前もって考えた計画のことです。「はかりごと（謀）」ともいいます。この言葉は、「1日の計画は1日が始まる朝のうちに立てなさい。1年の計画は新春に立てなさい。そして、一生の計画は若くて元気なときにしっかり立てなさい」ということです。「立てなさい」を「立てなければならぬ」と解釈することもできます。

ここには、短い言葉のなかに「計」の文字が3つもあります。息軒は、区切りのスタートに当たって計画を立てることの大切

さを重視していました。43歳のとき江戸に開設した塾に「三計塾」と名づけました。この言葉は「三計塾記」に記されているそうです。

息軒の言葉は、学校教育においても使えることです。1日、1年、一生のはじめに計画を立てることを子どもたちに指導するとともに、教師も実践したいことです。「三計」は、学校の教育活動を展開していくときにも重視したいものです。

計画を立てることには、目標を明確にし、その実現のために精一杯の努力することを求めているものと受けとめることができます。特に注目したいところは、一生の計画は「少壮の時に在り」です。子どもたちにも伝え、「夢」を抱き実現しようとする意思と意欲を育てたいものです。

編 集 後 記

「教育の小径」通巻200号をお贈りいたします。一口で200号と言っても、その発行期間は足掛け18年！担当編集者は延べ9人になります。そのすべてを一人で執筆されたのですから、その汲めども尽きぬ北先生のご知見と持続力には驚嘆の声すら出ません。引き続き300号・400号に向けて北先生はますます意気軒高。引き続きご愛読の程よろしく願い申し上げます。（H記）

企画・編集：ぶんけい教育研究所
発 行：株式会社文溪堂
発 行 日：2025年6月1日

INFORMATION

北先生の新刊です！

教師のリアクションカ
ー「指導と評価の一体化」とは何かー

「指導と評価の一体化」としての
教師の適切なリアクションを
具体的な事例をもとに解説！

著者／北 俊夫
定価／本体1,430円(税込)
発行／株式会社文溪堂
A5判 96ページ



「教育の小径」の
すべてのバックナンバーを
文溪堂ホームページから
お読みいただけます。

お知り合いの先生にも
お勧めください。



ぶんけい 教育の小径 検索

ぶんけい

教育 ほんといゅーず

かわら版

こ み ち
教育の小径 No.200
2025 June
6月号



(一財)総合初等教育研究所参与

北 俊夫先生



今月のことば

忙中閑あり

大変忙しいときでも、
わずかな暇や時間の
余裕があることをい
います。「忙中有閑」
と四文字で表すこと
もあります。

図書離れをどうくい止めるか

- 読書には、人生を心豊かに生きていくうえで重要な役割があります。にもかかわらず、各世代で図書離れが進行しています。
- 学校教育では、あらゆる教科等で学校図書館を利用する場や機会を設け、読書離れをくい止めることが求められます。読書の成果を活用することが大切です。

図書離れなぜ進んでいるか

身近な地域から徐々に書店がなくなって、久しくなりました。教育書を実際に手にとって確かめてから購入しようとしても、都市に出掛けなければ教育書の置かれた書店はありません。

近年、書店の閉店や図書離れが社会問題になっています。情報収集の方法をひとつとっても、ラジオや新聞や雑誌から、映像を伴ったテレビに代わり、やがてインターネットが加わってきました。こうした社会の変化が図書離れを引き起こしている要因のひとつと考えられます。

勉強に打ち込む時期の大学生や好奇心の旺盛な時期の高校生の多くが1 か月に1冊の本も読まないと聞きます。「不読率」の高まりや読書離れの傾向は若い世代ほどみられます。幸い小学生は、学校での「朝読書」など読書活動の取り組みもあって、現在読書数は維持されているようです。ただ個人差が大きいと聞きます。

図書はテレビなどの映像による手段と違い、一人一人に個性豊かな想像力や創造性を養い、理解力や表現力などの能力をはぐむ重要な役割があります。子どもたちに文字や活字に慣れ親しみ、「人生の伴侶（友）」にする

ことは学校教育の重要な役割です。各学校では、公共図書館とも連携しながら学校図書館の利用をとおして、図書離れをくい止める方策を考え推進する必要があります。

各教科等で図書館の利用を

学校教育において「学校図書館の利用を！」と要請されると、国語科の時間における「読書の時間」を連想しがちです。国語科の授業時数にカウントしているからでしょうか。

学校図書館を身近に感じ、日常的に利用するためには、あらゆる教科等の指導で図書や図書館の利用場面を組み入れるようにします。社会科や理科の授業で関連する図書を探して調べるよう促します。総合的な学習の時間に図書館を積極的に利用させます。

ある学校では、教科の単元の学習内容に合わせて、図書館から関連する図書を取り出して、当該学年の廊下や教室に備えていました。「ミニの学級・学年文庫」です。これにより、必要な子どもが必要なときに必要な本をいつでも手にとることができます。

学校図書館の位置を改善する必要もあります。校舎の端にあることも多いようですが、できれば多くの子どもたちがいつでも気軽に利用できる、校舎

今月の記念日 6月3日
測量の日

昭和24年(1949年)のこの日、「測量法」が公布されました。測量や地図への理解と関心を深めてもらおうと、建設省(現国土交通省)が平成元年に定めました。

の1階や中央（センター）部分にあることが理想です。施錠したままでは子どもたちの足が遠のきます。校内で、図書館主任などが中心になり、子どもの立場から学校図書館の運営のあり方を検討してみてもどうでしょうか。

作品コンクールへの応募促進

学校には、さまざまな団体から作品の応募が要請されていると聞きます。それは、作文をはじめ、新聞や絵画や標語だったりします。その代表的なものに、読書感想文のコンクールがあります。感想文を書くことには、内容の理解力はもとより、構成力や構想力など論理的な表現力を養う重要な意味があります。

作品に資料などの出典や参考文献を記述することを求めていることもあります。学校ではこれらの作品づくりを日々の教育活動に組み入れたり、家庭での課題にしたりします。

近年、これらの応募数が減少しているといえます。子どもの負担軽減や応募団体の増加などが影響しているようです。制作した作品の評価を第三者から受けることは自信や励みにもなります。子どもたちに作品コンクールを紹介して興味や関心をもたせ、積極的な応募を奨励してはどうでしょうか。

「教育の小径」は、本号で200号を迎えました。

1面では、教育活動や授業づくりに役立つ教育情報を多方面にわたって提供してきました。

ここでは、101号以降に取り上げたテーマを紹介します。なお、1号～100号のテーマは100号で紹介しました。

【平成28年(2016年)度】	
101	・学校の役割は何か
【平成29年(2017年)度】	
102	・新学習指導要領 ー構成と内容のポイントー
103	・研究授業ーどこを見られているかー
104	・教師は学校で育つ
105	・「祝日」の指導を
106	・夏季休業中に取り組みたいこと
107	・教員の研修会改革 ーもう1つのアクティブ・ラーニングー
108	・ノート指導の充実を
109	・生きて働く「知識」とは何か
110	・学び合いの意義とは何か
111	・授業に生きる評価 ー5つのポイントー
112	・授業の記録をとろう
113	・授業は対話型だけでよいか

134	・ティーチングとコーチング
135	・『学校版「人生手帳」』のすすめ
136	・通知表の様式の改善
137	・身近な「伝統」に目を向けたい

【令和2年(2020年)度】	
138	・新学習指導要領 完全実施1年目
139	・教師の「意図的指名」とは何か
140	・授業参観日のもち方
141	・「もったいない」の指導
142	・研修と研究の校内体制 ー研修主任の役割ー
143	・授業で協働意識を育てる
144	・ライフライン教育のすすめ
145	・「トイレ」を教材に教育
146	・コロナに負けない子どもに
147	・子どもの運動不足解消を
148	・ぶれない教育理念をもとう

【平成30年(2018年)度】		149	・著作権問題を考える
114	・新学習指導要領への移行課題 ー各学校は何を準備するかー		
115	・清掃の意義と指導のコツ		
116	・「深い学び」をどうつくるか		
117	・出前授業をどう実施するか		
118	・子どもの生活地域の観察を		
119	・教員の世代間ギャップの問題		
120	・子どもを鍛えるということ		
121	・社会参画は「授業参画」から		
122	・よい発問・悪い発問		
123	・「見方・考え方」を働かせた授業		
124	・子どもの相互指名を考える		
125	・教員の勤務は改善されたか		

【令和3年(2021年)度】		150	・教材とは何か ー「ある教材」と「なる教材」ー
151	・履修主義と修得主義の問題		
152	・ライフプラン作成の取り組みを		
153	・なぜ〇〇科を学ばせるのか		
154	・視野を広げる自己研修を		
155	・修学旅行を有意義に		
156	・子どもの「つまずき」を生かす		
157	・教科書のデジタル化問題		
158	・「個別最適な学び」とは何か		
159	・小学校の教科担任制を考える		
160	・SDGsと学校教育		

【平成31年度・令和元年(2019年)度】			
126	・これからの学習評価の 考え方・進め方	161	・評価と評定—違いを押さえたい
127	・初任者への支援をいかに行うか		
128	・「指名計画」とは何か		
129	・夏休みの事前指導		
130	・地域行事への参加促進を		
131	・将来に生きる防災教育		
132	・「特別の教科 道徳」の評価		
133	・さまざまな教育課題への対応		

【令和4年(2022年)度】			
162	・新しい学習評価の考え方 —改めて確認したいこと—		
163	・家庭訪問—その役割と課題		
164	・「土砂災害防止教育」のすすめ		
165	・子どもの発言をいかに組織するか		
166	・教師も体と心の健康管理を		
167	・自己評価の機能とは何か		

134	・ティーチングとコーチング
135	・『学校版「人生手帳」』のすすめ
136	・通知表の様式の改善
137	・身近な「伝統」に目を向けたい

【令和2年(2020年)度】	
138	・新学習指導要領 完全実施1年目
139	・教師の「意図的指名」とは何か
140	・授業参観日のもち方
141	・「もったいない」の指導
142	・研修と研究の校内体制 ー研修主任の役割ー
143	・授業で協働意識を育てる
144	・ライフライン教育のすすめ
145	・「トイレ」を教材に教育
146	・コロナに負けない子どもに
147	・子どもの運動不足解消を
148	・ぶれない教育理念をもとう
149	・著作権問題を考える

【令和3年(2021年)度】	
150	・教材とは何か －「ある教材」と「なる教材」－
151	・履修主義と修得主義の問題
152	・ライフプラン作成の取り組みを
153	・なぜ〇〇科を学ばせるのか
154	・視野を広げる自己研修を
155	・修学旅行を有意義に
156	・子どもの「つまずき」を生かす
157	・教科書のデジタル化問題
158	・「個別最適な学び」とは何か
159	・小学校の教科担任制を考える
160	・SDGsと学校教育
161	・評価と評定ー違いを押さえたい

【令和4年(2022年)度】	
162	・新しい学習評価の考え方 ー改めて確認したいことー
163	・家庭訪問ーその役割と課題
164	・「土砂災害防止教育」のすすめ
165	・子どもの発言をいかに組織するか
166	・教師も体と心の健康管理を
167	・自己評価の機能とは何か

168	・教育実習生の受け入れ
169	・観点「思考・判断・表現」の評価
170	・感性をはぐくむ教育
171	・子どもの個性とは何か
172	・授業とはいかなる営みか
173	・指導要録は機能しているか

【令和5年(2023年)度】	
174	・教科等横断的な指導の視点
175	・授業における「問い」とは何か
176	・確認したいノート指導の大切さ
177	・地域の伝統文化に触れさせたい
178	・1人1台端末学習 ー見えてきた課題ー
179	・自転車の事故防止教育
180	・教室環境とは何か ーモノ、人、空気ー
181	・「地域は学校」とはどういうことか
182	・教師はなぜ板書するのか
183	・教師に求められる5つの役割
184	・学校評価をいかに機能させるか
185	・進級・進学する子どもに贈る言葉

【令和6年(2024年)度】	
186	・「社会に開かれた教育課程」を考える
187	・新任教師へのメッセージ
188	・揃える教育と違える教育
189	・夏休みの自由研究 ー事前指導のポイント
190	・教師も有意義な夏休みを
191	・子どもの座席をどう決めるか
192	・文字・活字文化の振興
193	・教職の魅力とは何か
194	・授業時数の設定と確保の問題
195	・改めて体験学習の意義を問う
196	・共に高め合う職場環境づくりを
197	・社会課題の解決策を考えさせたい ー社会科の役割を果たすためにー

【令和7年（2025年）度】	
198	・学校における安全教育の充実 ー多様な課題にアプローチをー
199	・「学習の最適化」を考える
200	・図書離れをどうくい止めるか

○学校の危機管理(97～108号)

学校で遭遇するさまざまな危機的な状況にどう対処するか。学校における危機管理のあり方について、具体的な場面を取り上げて解説しました。

○こんなときどうする！(109～132号)

授業でのトラブルや子どもの指導上の悩みなど、学校で誰もが経験する問題場면을事例として紹介し、それへの対応策を簡潔に解説しました。

○学級経営の基礎(133～156号)

授業の基盤は日ごろの学級経営にあるといわれます。日ごろの学級経営において特に大切にしたいことについてポイントを絞って解説しました。

○子どもの言葉(157～168号)

子どもはときにきわめて個性豊かな言葉を発します。これを「光る発言」といいます。本コラムでは、子どもの個性的思考を大事にしたいという願いを込めて、子どもらしい言葉を取り上げ、その真意や意味を考えました。

○子どもの発言へのリアクション(169～180号)

「指導に生きる評価」の観点から、子どもの発言や行動をどう見とり、いかに生かすかということについて、子どもの具体的な発言をもとに、その対応を考えました。リアクションとは、子どもの発言にどう切り返しの言葉を発するかということです。

○新学級経営の基礎知識(181～200号)

学級担任にとって学級経営は授業の基盤であることを踏まえて、学級経営に関して最低知っておきたい基礎知識を解説しました。「学級経営の基礎(133～156号)」の続編です。

＊ ＊

○研究授業の目ー12のポイント(97～108号)

研究授業を実施する際、参考にしてほしいとの願いから、授業の参観者は研究授業のどこを見ているかを12回にわたって解説しました。

○新学習指導要領のキーワード解説(109～120号)

平成29年版の学習指導要領が告示されたことに伴って、改訂のキーワードを抽出し、12回にわたってワンポイントで

解説しました。

○「思考力・判断力・表現力」の指導と評価(121～132号)

課題解決に必要な能力とされている「思考力・判断力・表現力」の考え方をはじめ、育て方や評価の仕方について解説しました。

○北 俊夫の「実践と研究」の足あと(133～180号)

筆者(北俊夫)がこれまで歩んできた50数年間の教育の実践と研究の人生を振り返り、その時々状況を毎回ワンポイントで紹介しました。

○先人の残した言葉(教育語録)(181～200号)

教育に関わる優れた先人を国内外から取り上げ、先人が残した特徴的な言葉を紹介しました。教育活動や授業を行うに当たって、今日にも通用する教育や授業の基本理念です。

○教育の動向(37～200号)

その時々教育を巡る動向、文部科学省などから発信された情報などをワンポイントで紹介してきました。

執筆者からのひとこと

願いつけてきたこと

「教育の小径」の原稿の執筆に当たって、常に心がけてきたことがあります。それは「教育の小径」に対する筆者の思いや願いでもあります。それらのいくつかを紹介します。

まず、日ごろの教育活動や授業実践につながる情報を提供したいということです。ここには単なる理論(考えや考え方)の紹介で終わらせず、実践の改善につなげてほしいという願いがありました。これまでの200号を振り返ると、学校や授業のこと、教師や子どものことなどさまざまな分野に関連した内容になっています。1面では同じテーマが繰り返されないように心がけました。お陰で、筆者にとっても大変貴重な勉強の機会になりました。

次は、執筆に当たって、読者の方を意識したことです。小学校の先生方を中心に、校長や副校長・教頭、教育委員会の指導主事などさまざまな立場の方に読んでいただいています。また、「教育の小径」は文溪堂のホームページでも見ることがができますから、保護者や地域の住民、企業や団体などの人たちもご覧いただけるようになっていきます。さまざまな人たちが読まれることを想定して、できるだけ分かりやすく表現することを心がけてきました。専門用語など難解な言葉はできるだけ使用しないようにしました。

また、提供する情報の内容にも配慮しまし

た。学校教育は社会的な活動ですから、社会の変化に応じて変わらなければならないことがあります。例えば「教育の小径」が創刊されたころには1人1台端末のパソコンや英語科の必修などは話題になっていませんでした。このような「流行」に相当する情報の提供に努力するとともに「不易」の情報にも目を向けました。時代が変わっても、忘れてはいけないことや大事にしたいことなど、変えてはならないことにも配慮してきました。

最後は、「教育の小径」が保存するに耐えられる情報紙(リーフレット)にしたいということでした。お気づきの方もいると思いますが、紙ベースの「教育の小径」には、表面の左側に2つの穴が開いていて、ファイリングができるようになっています。発刊した当初は「教育はっとにゅーす 教育の小径」というタイトルが印刷されたファイルが提供されていました。

200号を迎え、これまでのすべての「教育の小径」を保存されている方がおられるかもしれません。もしこれまでのものに関心がありましたら、文溪堂のホームページ(https://www.bunkei.co.jp)から、または「文溪堂 教育の小径」で検索すると、ご覧いただくことができます。

「小径」からふくらんだ夢

最後に、私的なことを書かせていただきます。筆者は「小径」ということばが大好きで

す。「みち」には「径」のほかにも、「道」「路」「途」があります。「街道」ともいいます。

建設省(現在の国土交通省)は8月10日を「道の日」として記念日に制定し、昭和61年度と62年度に「日本の道100選」を定めました。道に関心をもっていただいた筆者は、各地の「日本の道100選」に指定された道をすべて訪ねました。実際には104か所が指定されていました。

江戸時代に、東海道、中山道(東山道)、日光街道、甲州街道、奥州街道の5街道が整備されました。「街道」と名付けられたのは明治以降です。以前は「道中」といっていました。筆者は5街道と水戸街道を健康維持と景観の観察を目的に、東京の日本橋を起点にすべて歩きとおしました。

筆者の好きな作家に司馬遼太郎氏がいます。司馬氏が書いた本に『街道をゆく』があり、全部で43巻を数えます。2回繰り返し読み終わりました。最終巻はほかの巻よりも薄くなっています。執筆の途中だったことがうかがえます。司馬氏は本書の執筆の途中で急逝されたからです。そのために、最終巻の文末には「未完」と書かれています。このような文末には出会ったことがありません。

「教育の小径」は、今月号で区切りのよい200号を迎えました。小さな径(みち)ですが、これからも一步一步進めたいと思います。径は身近なところにあります。あえて高遠なところにも求めていきたいと考えます。